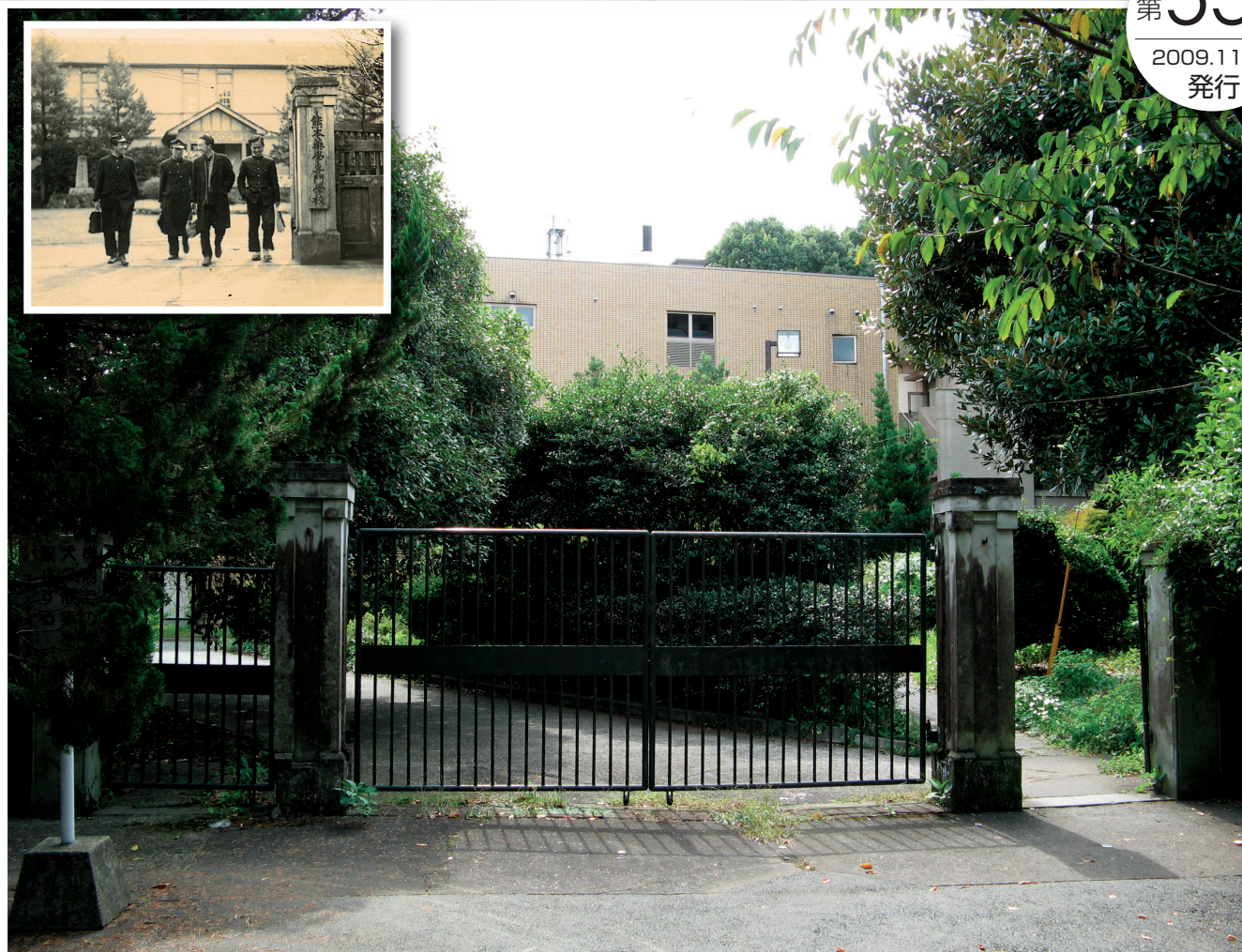


熊薬同窓会会報

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University

第53号
2009.11.20
発行



木立の中ひっそりとたたずむ旧正門（現北門）
（左上の写真は前田邦正先生（S22卒）より提供）

目次

巻頭言 熊薬同窓会会長 田代 昭	2
新任の先生紹介	3
育薬フロンティアセンター 模擬薬局完成のお知らせ	5
Professionalー卒業生の職場ー	6
同窓会名簿第38号の発刊作業を終えて	7
熊薬ミュージアム紹介⑥	8
卒業生だより	8
支部だより	10
熊薬、昔は今（26）	14
教育GP「エコファーマを担う薬学人育成プログラム」海外研修報告	21
日本蛋白質科学会年會のご報告	23
アジア薬科学会議報告書	23
薬用植物を知ろう in 熊本の報告	24

卒後教育講座	25
学内だより	26
薬学展報告書	26
研究室だより（天然薬物学分野）	27
サークル紹介 バドミントン部	27
庶務報告	28
同窓会寄付者芳名録	28
会計監査報告	29
編集後記	29
熊薬125周年記念行事について《予告》	30
熊薬同窓会からのお願い	30
平成22年度熊薬研究助成金申請	30

教育GP

「エコファーマを担う薬学人育成プログラム」海外研修報告

～ラオス編～

前号の同窓会報でもご紹介した通り、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に熊薬が企画した「エコファーマを担う薬学人育成プログラム」が採択され、昨年11月からスタートしております。このプログラムの一環として、今年の8月下旬から9月上旬にかけて海外2ヶ所（ラオス、イギリス）で体験型学習が行われました。今回、ラオスでの研修の様子をご寄稿頂きましたので紹介させていただきます。（なお、イギリス編については紙面の都合上次号に掲載します）

ラオス研修旅行報告日記

期 日：2009年8月30日（日）～9月6日（日）
8日間

参加者：学生9名（4年生：川幡さん、3年生：今田さん、川口さん、園田さん、長友さん、馬場さん、筑葉君、土屋君、2年生：坂本君）、職員1名（矢原）

コーディネーター、補助員：坂井弘臣氏（元ラオス駐在日本大使）、Prathoumxy Sousadaさん（ラオス大学卒業）

薬学部エコファーマにおいて、ラオス研修旅行が企画され、4年生1名、3年生7名、2年生1名の計9名の参加希望があり、企画された白崎先生は胸をなでおろしておられました。

8月30日（1日目、晴れ）出発の日、福岡空港を11時50分出発、機内食と睡眠を取り、無事バンコクに。ホテルは空港に近く、前にコンビニもあり、到着後すぐにチャットチャック市場に。バンコクの人の暮らしを覗きに出かけました。初めて見るタイの小物に興奮し、あまり広いので置いてきぼりになった学生がいましたが、すぐ見つかりました。（良かった）その後、夕食は小泉元首相も行ったという、ソンプンの料亭に。蟹カレーが美味しい店。タイの高級料理を楽しみました。お腹一杯食べて一人1000円強でした。

8月31日（2日目、晴れ）、朝、ラオスへの出発前に時間があり、バンコクの朝のラッシュを経験しながら（高速道路でも4車線が6車線で車が走っている等）、朝食を兼ねオトコ市場で（30日に行ったチャットチャック市場の道向かい）沢山の食材に圧倒されながらSousadaさんが選んでくれた朝食に舌鼓を打っていた。その後は、タイの果物巡り、マンガスチン、ランプータン、ドリアン等を少し食べました。食べ物物の洗礼をうけ、少々お腹を壊した学生がいましたが、ひどくはならなかったようです。車酔い、飛行機酔い、それに食べ物がないために、食事が進まない様子。バン

コクの空港で出発を待っていると、“矢原”と言うどこかで聞いたような声、私の恩師、山崎元広島大学教授が“俺の横にいる人分かる”との質問、“どこかでお見かけしたような”といっていると、“養老先生だよ（虫の好きな養老孟司先生）”と。確かに。学生も横目でチラチラ、出発までの30分ぐらい話をし、ラオスの首都ビエンチャン空港で、学生はちゃっかり一緒に写真を撮らせてもらいました。



養老先生とビエンチャン空港で

ビエンチャン空港では、全員に発熱、嘔吐の健康状態の申告書の提出を要求（機内で記入）、赤外線体温計で全員を検査していました。今の保健大臣が、SARS発生時に導入したとのことでした。その大臣に午後には会えるので学生も緊張し張り切っていました。ホテルに着き、昼食後市場へ、さっそくラオスの正装のスカートを買いに出かけました。途中バイクの交通事故を目撃しました。市場は込み合い、たまに水がたまった狭い道を歩き、服屋さんへ。女性6名はスカートに着替え、保健大臣（日本の厚生労働大臣）のところに表敬訪問、坂井さんが私の友達だよと言われるので少しリラックスして応接室へ。座る順番などをお聞きし、大臣をお待ちしました。坂井元大使の挨拶と紹介の後、私の挨拶と質問を少し。続いて学生さん一人一人の質問が可能かどうかお聞きし、学生さんからの質問。日本とラオスの医者と薬剤師の待遇、地位などの違いの質問に、大臣もたじろいでおられましたが、きちんとお答えをいただきました。ただ通訳の方は専門用語が多く、苦勞することもありましたが、そこは坂井さんのサポートで1時間余の表敬訪問を終えました。坂井さんいわく“熊本大学

の学生は違うという良い印象を与えたのでは”とのこと。学生全員に質問してもらって良かったようです。

9月1日（3日目、晴れ）は、午前中、ビエンチャン市内の薬草市場などの視察を行い、衛生管理、ごみに状態、食堂の裏側などを見ました。午後からは、マホソット病院の見学。前日にレストラン夢でお会いした熊本で研修した女医さんの担当している眼科、耳鼻咽喉科の案内を詳しくしてくださいました。診療器具などは、日本の30年以上前の道具が大事に使われていました。手術室の衛生管理なども日本の学生からすると考えられない状態です。それでも一生懸命に医療を行っている姿を見ることができました。続いて、薬学部があるラオス国立保健科学大学の見学です。学長、教授などとの面談、ご説明の後、構内を見学しました。図書室では学生が沢山勉強をしていました。実習室は、器具が大変少なく、ガラス器具が丁寧に棚に並べられ、実験台・床は綺麗に清掃されていました。エアコンも入っており、大変立派な実験室です。フランスの援助で作られたと言っておられました。薬用植物園には約100種の薬用植物が植えられ、説明のラベルがあります。学生が自由に入って見学している姿を見受けました。ちょうど講義も終わり学生さんがぐっすりしていましたので、Sousadaさんの通訳で、4～5人の学生さんと談笑をしていました。

夜は、ラオス熊本友好協会が建設したラオス国立大学女子寮での夕食会に伺いました。ビエンチャン市内から約20kmの郊外に約3km四方の広大な敷地をもつ大学です。そのすみに2階だけの寮2棟があ



ラオス保健科学大臣、元ラオス大使とラオス研修のメンバー



ラオス大学女子寮の料理風景

り、男子学生も加わり夕食の準備が始まっていました。杓と臼を用い野菜、ハーブ、トウガラシなどを潰してスープに入れます。待っている間に、日本から持ってきた折り紙で交流を深めました。最初は数人から始まり、多くの学生さんが一緒に楽しみました。夕食のパーティーは40名位が集まりゴザに車座に座り、坂井さんの挨拶の後、夕食会が始まりました。最初はごちそうなかつたのですが、英語で少しずつ話が弾み、身振り手振りで大きな笑い声が出るまでになりました。男子学生がギターによる地元の歌、それに日本の歌をお返し、和やかに進み、普通では出来ない貴重な経験をする事が出来ました。

9月2日(4日目、晴れ)は、ビエンチャン薬用植物研究センター訪問、ASEANの会議で所長さんはバンコクに出張とのこと、WHOが進めている富山の配置薬の話も出ました。植物園を見学し、薬草茶を購入しました。午後は、ビエンチャン都保健局にうかがいました。女性の所長さんに学生さんが質問を沢山し、30分のところが1時間にもなり、次の工場見学の時間が少なくなっていました(矢原のミス)。続いて、製薬工場N03の見学です。参加者の中で唯一創薬・生命学科の坂本君が製剤を新しく作る方法などを質問しますと、その答えに“勉強してラオスの製薬業界に役に立つようにODAでぜひ来てほしい”と言われました。時間が無く工場見学が出来なかったのが残念です。川口さんが研修の前に、日本の製薬会社の工場見学に出かけていましたので、比較したかったようです。GMP、物品管理、廃液管理などでは大きく違うが、人の発展的なところは学べるべきものがあつたようです。

9月3日(5日目、早朝雨、後晴れ)。朝食があまり進まないで、五苓散(酔い止めに)を皆さんに渡し、飲んでもらって空港へ。約30分のフライトでルアパバーン空港へ着、日本への郵便を出し(帰って10日目位経って着いたようです)21人乗りのマイクロバスで、舗装のしていない道を4時間強。途中昼食(民家の食堂の厨房、裏庭、トイレを体験)、メコン川を板フェリー(15分位)で渡り、サイニャブリー(Xainyabouly)県の病院・薬用植物センターへ3時ごろ着きました。親切な説明

の後、薬用植物園、伝統医療の診療所、伝統薬(煎じ薬)の薬局など、更に西洋治療の小児病棟、手術室、外で竹の先に袋を付けた点滴を受けている親子の風景などを見せていただきました。太陽も西に傾くころホテルへ。外での夕食後、夜のおやつを買いに。このあたりになると学生も買い物になってきています(私より巧い)。

9月4日(6日目、晴れ)、朝市に出かけました。学生は小さいサッカーボールを仕入れ遊んでいました。肉、乾物、野菜、果物、沢山のハーブ類を見学後、メコン川をフェリーで渡り(下りは5分)、4時間の全身マッサージ付のドライブ(未舗装の道)の後、ルアンパバーンに着。ホテルに荷物を置き、隣の日本食レストランSUSIで昼食。カツカレー65000Kip(約700円)、親子どんぶり45000Kip(ちなみにラーメンは10000Kip、約110円)を皆で食べました。昼食後、最後の見学地ルアンパバーン県病院へ。広い敷地に大きな建物です。しかし、玄関、ロビーには誰もいません。薬局も半分閉まっています、中にある薬剤師の方は暇そうにしています。2階会議室に通され、会議が始まりました。女性の医院長さんの説明の中に、中国の援助で建てられ、診療・検査機器も入れられましたが、例えば、CTスキャンの装置は、測定は出来るが、解析できる医師がいないので研修が必要だ。装置が壊れても直すお金が無いなどのお話。今まで伺った病院、工場は全て自立して経営を行っておられたので、学生は驚いたようです。入院病棟には各部屋にエアコンは設置してありましたが、窓は開いていて動いていませんでした(エコでしょうか?)。薬局を見せていただきましたが、前を通ったときには閉まっていたのが残念です。最後の訪問先の病院で“お金が無いので出来ない”が度々出てきたのは、ODAの援助のあり方の一面を勉強するにはよい機会だったのかもしれません。その後二手に別れ、7名がスパでアロマの体験に、5名が紙すきの現場に行きました。和紙のいろんな民芸品がありました。ゆっくりと作り方などを勉強してみたいものです。6時前にホテルに帰り、歩いて10分ぐらいの夜市に先に出かけました。スパの皆はアロマテラピーの体験をじっくりしました。夕食の場所を集合場所にし、5名でノンビリと、まだ明るい夜市を楽しみました。今日はちょうど満月(full



ラオス大学女子寮での夕食会が終わって



ビエンチャン高校寮生との親睦会(歓迎のバーシーの儀式)

moon)です。夕食は高級ラオス料理の店、学生さんは少々疲れ気味で、食欲が余り無く、簡単な食事を選び、早めに夜市で買物です。学生さんの元気が戻ったこと。安いのを一生懸命ねざり、自分のもの・お土産をゲットしていました。帰りは念願の三輪タクシー、トゥクトゥクに乗り帰りました。念願がかなったので皆さんゆっくり眠れたことでしょう。

9月5日(7日目、晴れ)、ホテルで朝食後、空港へ着いてびっくり。乗客が少ないので、13時過ぎまで飛ばないとのこと。待ち時間が3時間以上あり、近くの王宮跡、商店街でショッピング。矢原、坂井さん、Sousadaさんは昼食に納豆(トウガラシ入り)入りラーメンをちゃっかり食べました。学生は空港レストランで昼食後、ビエンチャンへ。17時過ぎビエン



ラオスのラーメン

ンチャン高校の寮へ出発、凱旋門の横の中心部にある高校です。着くと約80名の高校生が出迎えてくれました。挨拶、続いて始まるのバーシーのお祈り儀式の後、各自が写真撮影などで親交を深めた後、高校生が作ってくれた沢山の食事が並べられました。1時間弱の食事の後、ダンスパーティーの始まりです。皆で輪になり教えてもらいながらダンスを楽しみました。20時過ぎ、お別れの時間になり空港へ。ビエンチャン国際空港(10名で預けた荷物は175kg)からバンコク空港へ、バンコクで3時間位の待ち時間の後、夜中の1時のフライトです。

9月6日(8日目、晴れ)早朝8時に福岡空港に無事に到着。入国、税関も通り、8時30分ごろ空港で解散式を行いました。皆さん、怪我、病気も無く無事に研修を終えることが出来ました。

ラオスは、ゴミも少ない、ホコリもひどくない、食事も日本人の口に合い、人が優しく、店でぼられることもほとんど無い国です。皆さんまた行きたいとのこと。11月9日、学生さんによるすばらしい報告会がありました。ラオス保健科学大学との学部間協定も進んでいます。

文責

薬用植物園園長(薬用植物分野准教授)

矢原 正治